

## 第17回日本母性看護学会学術集会

### リプロダクションに関する女性の意思決定支援と評価

聖路加国際大学研究センターPCC 実践開発研究部

有森 直子

保健医療の意思決定は、その決定がのちの健康に影響を及ぼすことや倫理的課題に触れることもあるため患者やその家族にとって難しいものとなる。リプロダクションに関する意思決定では、カップルの合意形成や、妊娠から出産まで時間的制約があることに加えて、適切な相談相手がいないというサポートの不足も決定を難しくする要因になっている。

意思決定支援の介入研究の多くは、治療や検査に関する情報や知識を、いかに患者にとってわかりやすく提供するかを検討である。近年、注目されているのが、医療者と患者が、決めるプロセスを共有する「shared decision making (共有意思決定)」である。これは、医療者と患者のパートナーシップにより具現化される新しい医療の在り方である。

本セミナーでは、出生前検査について検討している妊婦を対象にした意思決定支援の介入研究 (RCT) の一例を紹介したい。具体的な介入には、意思決定を段階的に導く「オタワ個人意思決定ガイド (冊子)」を用いた。このガイドは、まず、意思決定すべきことを明確にして、自分が決めるために必要なことを見極めるために、選択肢のメリットデメリットを挙げながら比較する。次にそのメリットデメリットに対する自分の価値観を確認する。これらの作業を通して、よりよい意思決定をするために必要な課題 (情報の収集や価値観の再考等) を明確にする。ガイドを用いることで、望ましい選択肢が直接的に導かれるのではなく、意思決定のために次にすべきことが明確になるというガイドである。プライマリーアウトカムは、葛藤尺度 (decision conflict scale) を翻訳して使用した。さらに、この研究を基盤として行った看護職を対象にした教育プログラムの開発と評価について、研究成果を臨床のサービスにつなげていく研究活動の試みとして報告したい。